

みなお通信

高崎市議会議員 高橋美奈雄

〈市政相談連絡先〉

〒370-0041

高崎市東貝沢町2丁目32-6

TEL&FAX 027-363-2733

E-mail: minao.t@jcom.home.ne.jp

6月市議会定例会報告

平成29年第3回市議会定例会は、6月8日から22日までの15日間の会期で開かれました。

本定例会では、「請負契約の変更について」（中央銀座アーケード改築工事）、「高崎市個人情報保護条例の一部改正について」、「平成29年度高崎市一般会計補正予算」（第1号）、高崎市農業委員会委員の任命同意について、人権擁護委員候補者の推薦についてなどの議案の審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。

～ 第2回臨時会のあらまし～

5月15日に平成29年第2回市議会臨時会が開催され、総務教育・保健福祉・市民経済・建設水道の4常任委員会の委員の選任を行いました。

また、監査委員の選任同意など、議案等7件について審議を行いました。

～ 第3回定例会で平成29年度一般会計補正予算を可決～

歳入歳出予算の総額にそれぞれ4億4,389万円を追加し、総額を1,687億5,389万円としました。土木費の高崎駅西口ペDESTリアンデッキ整備事業・築造工事に4億3,600万円、消防費の災害対策事業・自治総合センターコミュニティ助成金に200万円が計上されました。

各常任委員会が開催され、付託議案や所管部分の補正予算などの審査・調査を詳細に行い可決しました。

政務活動費に関する情報をホームページで公開

本会議の様子は、ライブ中継や録画配信をしており、一般質問の質疑応答の様子もインターネットでご覧いただけます。

また、7月からは政務活動費に関するページの公開を開始しました。領収書等を含む収支報告書も確認できます。今後も政務活動費使途基準の運用指針に基づき適正な執行を図ってまいります。



六月定例会

市政に対する一般質問

一般質問は、四日間にわたり二十三人の議員が行い、高橋みなおは一日目に登壇し質問しました。以下、概要を報告します。

第5次総合計画の評価分析と今後について

質問 総合計画は、まちづくりの最上位計画として地域の目指す姿を明確にし、成果を上げてきたと認識している。市長の掲げる「新しい高崎」の基本方針に沿って各事業が順調に推進されているが、最終年度となり新たな考えで評価が必要であるが見解を伺う。

答弁 十年間着実に推進してきたことにより、現在本市で目指している「新しい高崎」の創出に結びついていると認識している。評価については総合計画に掲げる将来像を勘案しつつ、予算配分や毎年の事業査定による判断が重要であると考えている。

質問 地方自治法の改正により基本構想の策定義務がなくなったが、自らの責任と判断のもと、市民にわかりやすく示すことが必要と考えるが本市の対応は。

答弁 行政組織が各分野において方向性を

明確にし、柔軟な考え方に基つき策定すべきであると考えている。市民にわかりやすい計画策定に努めたい。

質問 首長のマニフェストとの整合性も問われると考えるが、短期的な計画策定の可能性も視野に入れていいのか。

答弁 内容の検討とともに確定すると考えるが、市の中長期的な指針と位置づけ、計画期間は十年間で進めるのが妥当と考える。

本市の企業誘致と若者の雇用について

質問 市内への企業誘致促進や、市内企業への定着を推進するための各種奨励金制度の成果をどのように受け止め分析しているのか。

答弁 優れた立地や全国トップクラスの条件を用意し企業誘致等を進めた。雇用促進奨励金では市民の正規雇用の確保に努め、本市独自の施策の成果が現れていると受け止めている。

質問 スマートインターチェンジ周辺整備事業の進捗状況と合わせた地元採用の方向性は、どの程度進んでいるのか。

答弁 企業募集の際、地元採用を基本とし積極的な働きかけを行い、既に募集を始めている企業もある。奨励金の活用を説明するとともに正規雇用を働きかけていきたい。

質問 一度県外に転出していった若者が地元に戻るには、就職したい企業・仕事が市内にあり、

正規雇用であることが重要となる。今後、行政としてどのような施策を検討しているのか。

答弁 産業団地の整備を引続き進め、企業誘致や若者の正規雇用の確保に努めていく。働く場が確保され、誰もが安心して暮らせるまちづくりにつなげていきたい。

♪ 後記 ♪

県教育委員会が、教員の忙しさや充実感についてアンケート調査を実施した結果、九割を超える教員が「多忙」と回答したそうです。特に調査・報告書作成などの事務作業が多く、「部活動・クラブ活動」は充実感を得られる一方で多忙に感じるという回答が目立ったとか…

さて、小・中・高校野球に携わらせていただき二〇年以上。日程調整や体力的に困難なこともありますが、夢と希望にあふれる若者たちと同じグラウンドに立ち、一緒に汗をかき、感動できることに感謝の気持ちでいっぱいです。教育現場の厳しさはもちろんです。早急な対策を願っているのは私だけではないでしょう。

九州北部の豪雨災害において、甚大な被害を受けられた方々に心からお見舞い申し上げます。災害が少ないと言われる本市でも、いつ、何がおこるか予想できないのが現実です。

「防災・危機管理対策特別委員会」委員長として、引続き「安心・安全の先取り」に取り組んでまいります。